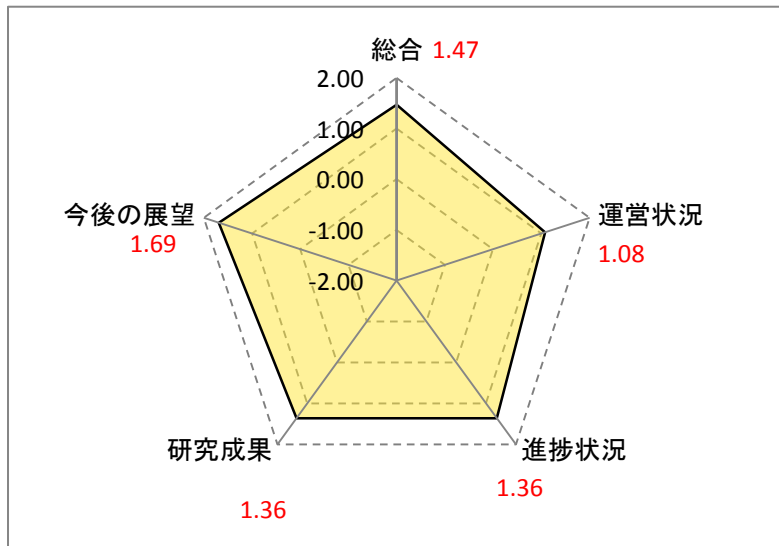


戦略的研究推進センター平成26年度研究プロジェクト評価

研究プロジェクト：萌芽研究部門 山陰地方強靱化を目指した自然災害の統合的研究

	総合	運営状況	進捗状況	研究成果	今後の展望	得点の平均
得点	1.47	1.08	1.36	1.36	1.69	1.39
評価	B+	B+	B+	B+	A	B+



(評価コメント)

本研究の基礎となった平成25年度萌芽研究「山陰地域における自然災害データベースの構築および防災研究拠点の形成」と比較して、「総合評価」が顕著に高い評点となっている（H25年度1.21→H26年度1.47）。これまでの経験を活かし「進捗状況」（H25年度0.83→H26年度1.36）が大きく前進したことが「今後の展望」（H25年度1.04→H26年度1.69）の飛躍にも繋がっている。平成25年の山口・島根豪雨災害にひきつづき平成26年にも広島市で大規模な土砂激甚災害が発生しており、本プロジェクトの存在意義はますます高まっている。汪教授を中心に広島の実験現場にいち早く駆けつけ迅速な原因究明を行ったことは高く評価される。本研究プロジェクトは、一般市民の関心と期待も高い分野であり、存在そのものが社会貢献になっている。HP上で簡単に閲覧できるGoogleMap上のデータマップや新しいハザードマップ作成は、その成果を迅速に利用できるよい試みとなっている。山陰防災フォーラムの春秋2回の定期開催も地域貢献に役だっており、特にH26年度は内閣官房参与、国土交通省、島根県庁の関係者を招き一層の内容充実を図っている。更に、学術的にもレベルが高く、国際誌への論文公表および学会発表を行っていることも、成果の信頼度を挙げることに貢献している。

一方で、研究対象が土砂・洪水・異常気象・地震・津波災害など多岐に渡っていることから、各グループ間の連携作業、成果の相互関連の検討、および光ファイバーの活用成果などについては、今後更に明確にしていくことが望まれ、それらも併せて最終的な具体的な到達目標を構築していただければ幸いである。